

令和2年度第1回 淀川区区政会議 議事要旨

日時：令和2年8月7日（金）18:31～20:31

場所：淀川区役所 5階 501～503 会議室

出席者：

- ・ 委員（22名中14名出席）
- ・ 増田委員、渡土委員、堀委員、米田委員、福岡委員、川阪委員、中井委員、奥委員、西澤委員、光在委員、泉水委員、永野委員、中道委員、横山委員
- ・ 区役所
山本区長、中喜多副区長、西総務課長、久保政策企画課長、畑中市民協働課長、浅灘保健福祉課長、井上教育支援担当課長、武田保健・子育て支援担当課長
松尾政策企画課長代理、山崎市民協働課長代理、佐多教育支援担当課長代理、森川保健副主幹 他

内容：

1. 開会
2. 区長あいさつ
3. 議題
 - (1) 2019年度（令和元年度）淀川区運営方針の振り返りについて
 - (2) 新型コロナウイルス感染症にかかる課題等の共有について
 - (3) もと淀川区役所跡地に整備予定の新淀川図書館におけるにぎわいづくりにについて
4. その他

資料：

次第、区政会議委員名簿、座席表

- ・（資料1）各議題においてご意見をうかがいたい内容
- ・（資料2）2019年度運営方針重点的に取り組む主な経営課題（概要版）
- ・（資料3）もと淀川区役所跡地等活用事業 計画提案書（抜粋）
- ・よどマガ8月号
- ・ご意見票
- ＜その他＞
 - ・新型コロナ禍における災害対応について（主な課題）
 - ・淀川まちセン通信2020年6月号
 - ・淀川区防災マップチラシ

- ・区政会議アンケート
 - ・(参考) 各区で取り組んでいる区政会議運営上の工夫事例
 - ・令和元年度 淀川区役所運営方針評価シート
-

1. 開会

2. 区長あいさつ

3. 議題

(1) 2019年度(令和元年度)淀川区運営方針の振り返りについて

●資料2について説明

(西総務課長、久保政策企画課長、畑中市民協働課長、淺灘保健福祉課長、井上教育支援担当課長、武田保健・子育て支援担当課長、松尾政策企画課長代理)

○質疑

・昨年防災に関する小冊子を頂いて地域内で配りましたが、今回のコロナを含めた新しい冊子の作成予定はありますか？(中井委員)

⇒おそらく木川南地域の地域防災計画のことかと思われませんが、順次改定される地域もありますし、今後の課題となっています。(山崎市民協働課長代理)

・淀川区防災LINEは本当に素晴らしいと思っています。登録実績が4,700人ということで、かなりいい成績だそうですが、もっともっと広めていただきたいと思っています。1世帯に1人、このLINEを入れたとしても、淀川区の世帯数が9万5,000世帯とすると5%です。もっと広めていただくように、よどマガで宣伝をお願いしたいと思います。(福岡委員)

・4月に淀川区の避難所開設訓練シミュレーションをしていただきました。今年に入って北海道から沖縄まで震度4の地震が多発していて、今コロナの状況の中で、多くの人を集めてではなく、グループ分け等の工夫をして、早急に私の地域でも防災訓練をしたいと思っています。先の訓練のビデオを早急につくるということでしたが、いつ頃いただけるのでしょうか？(渡士委員)

⇒避難所開設訓練のビデオはコロナの環境を意識した内容がメインになるかと思えます。できるだけ早くつくり各地域にお配りします。(畑中市民協働課長)

・学校の先生が、勉強の必要な生徒にダイレクトにヨドジユクを勧めるような働きかけをしてあげるのが一番ではないかと思えます。仕組みをかえていただい

て、あまねく子どもに働きかけるのではなくて、学校の先生がスポットで子どもを指名すれば、塾代1人当たり2万円ぐらい出してあげるみたいなかたちでいいのではないかと思います。5年もたったということなので、その辺を考えていただいたらと思っています。(奥委員)

・こども食堂に関わっていますが、実際、困っている子どもたちを把握するのはすごく難しいと感じています。把握した子どもたちの個別の事情を勘案しながら、その子にあった支援のようなものをできないかと思っています。こども食堂と行政とで、どこかで結んであげるということを何か考えていただければと思います。(永野委員)

⇒こども食堂で把握されている方につきましても、「こども未来輝き事業」につながるすることができます。(浅籬保健福祉課長)

・全国規模で行われる学力調査の結果について、全国や大阪府下と比較して、淀川区全体の学力がどのぐらいの状態にあるのかを表す方法を検討してもらいたいと思います。(西澤委員)

⇒全国平均、大阪の平均に対して、その学校が何ポイントかというのは、各学校で出されていますが、生徒数が少ない学校は個別の学校のポイントを出さなくてよいとなっていますので、淀川区内でも出されていない学校があり、淀川区全体でその平均を取ることが非常に難しい状況です。(井上教育支援担当課長)

・地域で子育てサロンを再開するにあたり、参加者を制限する方法、消毒や安全面、子どもたちや地域のお手伝いの方のコロナ発症等について心配があります。区役所の子育て講座ではどのような形で制限し、実施されているのでしょうか？(米田委員)

⇒月に1回開催している、ゆめちゃんハッピールームでは、親子ヨガの講座を、エリアを区切り、ここまでしか入っては駄目というのを明確にして、人数も前の半分ぐらいにして最近実施しました。予約制にして、熱も測らせていただいて、消毒もして実施したところです。(武田保健・子育て支援担当課長)

⇒コロナの状況の中、どこに問い合わせれば、子育てサロンを再開した地域がわかるのか、ある程度の決まり事というものをつくっていただきたいとすごく感じています。(米田委員)

・訪問型病児保育で、目標値が204名以上に対し、実績値が169名で、早々に質の向上を重視した事業展開へと方針を移行するとあるんですけども、その理由が訪問型の医療ニーズがほぼ上限に近づいているためということになって

います。これは他区との比較であるとか、何かデータを基に判断されたのでしょうか。(横山委員)

⇒訪問型病児保育事業は、大阪市の中では、西区と淀川区のみ実施している事業です。上限に近づいていると考えましたのは、この事業が始まりましたのが2013年度、その時点では52名からスタートをしていますが、だんだん増えて、2017年度で140名ぐらいになっており、昨年度が163名です。以前からの伸び率と比べますと、非常に鈍化した傾向が見受けられますので、上限に近づいているのではないかと考えています。(武田保健・子育て支援担当課長)

⇒せっかく設定された目標値なので、そのニーズ、潜在的なものたくさんあると思いますので、もちろん質の向上は重要ですが、その辺の掘りお越しも、ぜひ合わせて努めていただくほうがいいのではないかと思います。(横山委員)

・2-2-3の子育ての負担感軽減の評価指標で子育て講座「ハッピールーム」参加者において負担感が軽減したと答えた割合が実績値で98%となっています。参加者にアンケートを取って満足されたということですね。ここに来られる方はいいのですが、問題は、来られない方で、精神的な負担が実際にあると思います。来られない方、もっと困ってる方に対して支援する方向にしてほしいです。この指標だと、充実感があるように感じますが、実際はそうではないと思うので、今後この目標もまた違う形でしていただけたらと思います。(中道委員)

・淀川区防災LINEで目標値が4,000程度でいいのかと思います。LINEで発信するのに、登録者数があまり増えると料金がかかるのですが、地域への防災のための発信方法ですし、LINEの宣伝にもなりますので、LINEに無料化を訴えてもいいのではないかと思います。80歳でもLINEができるようにすること、これが防災の面にしてもコミュニティが止まらないようにするにも大事ではないかと思っています。(奥委員)

(2) 新型コロナウイルス感染症にかかる課題等の共有について

・地域では、コロナ禍での問題点として、比較的大きなイベントに力を使っていたということで、小さな寄り合いの場などが少ない。魅力的なそのような拠点が少ないというような課題があったり、情報を早く届けたかったのですが、届けにくい人たちがたくさんいらした。コロナ禍で災害が出たときは、避難の仕方や、在宅の避難の計画の立て方、分散避難の仕方などが全然用意がされていなかったという課題がありました。ただこれはコロナ禍で発覚しただけであって、

地域の中のもともとあった社会問題でもあると感じています。地域では新規事業として、地域拠点の強化事業をしていこうと考えています。会館をもっと魅力的な有効活用ができるような場所にしようということで、もう一つは、SNSが使われないような方のために、掲示板の魅力化というようなものを立ち上げようと思っています。

軽微な事業変更としては、敬老会なども、式典はできませんが、防災の啓発で一軒一軒に訪問するということは続けて行うということで、そこでアンケートを取ろうと思っています。特に今年度は、高齢者の食事会や、ふれあい喫茶みたいなところで、困り事などを取り上げることができていけませんので、困り事や不安なことを抽出して、それでニーズを発掘して、アフターコロナに備えようと思っています。もう一つが、集まらない形での避難訓練を考えています。SNSを使ったり、写真や動画を使って安否確認をしていくという形を考えています。今までは共助の部分に力を入れていましたけれども、自助とか公助というところを丁寧にアプローチし、個々の防災力を高めていくというような防災訓練、避難所の運営訓練のほうに反映させていきたいと思っています。(増田委員)

・新型コロナウイルス感染症のPCR検査をもっと受けられるよう検査数を増やしてほしい。検査数を増やせばそれだけ感染者を特定することができる。年末までに感染者をゼロに近づけられるよう、ヒト・モノ・カネを動かしていただいて、東京都世田谷区や長崎県のように、誰でもいつでも何回でも検査が受けられる体制整備をお願いします。(中井委員)

・身近にあった話だが、若い人がコロナに感染し、そのご家族がPCR検査を受けられたのが4日後、濃厚接触者は7日後だったそうです。その間、感染者と違い、ご家族や濃厚接触者は外出できる状況であり、特に若い人は外出してしまうため、もしコロナに感染していたら市中感染がさらに広がってしまう恐れがあります。早くPCR検査を受けられれば感染を抑えられるため、PCR検査をもっと早く受けられる体制を構築してほしいと思います。(石田委員)

・保健所の復活や感染症対策を行う部署を増やすことを本気で考えていただけませんか。今回の新型コロナウイルス感染症は、たまたま日本では重症者や死亡者がわりと少ない状況ですが、今後も同じとは限らないと思います。どういふ対策をとっていくのかを明らかにしていただきたいです。必要な人と予算と装備は用意していただきたいと思います。(永野委員)

・十三市民病院がコロナ専門病院になった時に、十三市民病院に通っている外来

の患者さんに対して何の連絡もない、連絡をつけようがないと、というような状態だったと思います。外来の患者さんにこのようにしてくださいという告知はあったのでしょうか。当時、十三市民病院への電話もつながらないという状態で、十三市民病院の職員の方はいろいろな対応で大変な状態であったと思うので、外来の患者さんへの対応ができなかったということだと思います。十三市民病院をサポートするような体制があってもよかったのではないのでしょうか。(福岡委員)

・コロナ禍において、今、子育てサロンはお休みしていますが、現状、地域の方が子育てサロンのお手伝いしたいということについて、ウェルカムでしょうか、ノーでしょうか。(奥委員)

⇒基本的には、地域の方々のご協力をいただけるのであれば、そういうご協力もいただいて、区役所ができる範囲というのは限りがありますし、ニーズも役所が考えるニーズより、区民の方が実際感じているニーズのほうが正しいのではないかと思います。ただ、実際にいろいろな規則等で縛られている部分もあり、区長が言ったからと言って、すぐに全部受け入れることは難しいかと思います。私個人の考え方としては、そういう区民の方々と一緒に行政はやっていくというのが筋だと思っております。(山本区長)

⇒区役所ができることをと言いましたのは、今、区長がおっしゃったことを発信していただけたらいいのではないかと思います。地域がやりたいと思っているのであれば、いろいろなことがあるかもしれませんが大いにやったらいいと思います。それをほとんどの方が危ない、危険だということで自粛だらけになっているのが現実かと思えます。そこに役所があまり入って行ってほしくない、地域でやっていくことというのは、地域で決めていけばいいと思います。子育てサロンも各地域で足並みをそろえる必要があるんでしょうか、地域で決めていかれたらいいのではないのでしょうか。地域でやってほしいという声が多いのであれば、やられたらいいという形になればと思います。でも、みんなは責任取れないので、決めてくれって言われます。役所は、判断しないで、発信ばかりでいいのではないかと思います。(奥委員)

(3) もと淀川区役所跡地に整備予定の新淀川図書館におけるにぎわいづくりについて

・もう本だけではないよ、というキャッチがつく学習情報センターのような機能を持った図書館であつたらいいと思っています。淀川区の環境や生態系、防災、歴史というようなコーナーがあり、本にのっていないような場所や伝記になっていないような偉人などを区民みんなで見学資料を見て、調べてウィキペ

ディアのようなものを作り上げていくコーナーみたいなどころがあると、みんなでわいわいする、交流するという目的が達せられるのではないかと思います。(増田委員)

⇒みんなで育てるライブラリーという、皆さんがいろいろ興味のある本を持ち寄って、ほかの人にいろいろ意見を聞いたり、意見交流ができるような場所も設けるようにしております。今の御提案のような内容については積極的に取り入れていきたいと考えています。(山本区長)

・資料には、十三のランドマークということが散見されますが、あくまで、淀川区のランドマークだと思います。(横山委員)

⇒十三の駅前という位置的な関係もあり、そのような表現が確かに多いとは思いますが、本当に淀川区の施設でございますので、その辺の表現については、今後いろいろ留意していきたいと思えます。(山本区長)

・大きなスーパーができるということですが、地元の十三としては、シャッター商店街にさせないように、地域と一緒にクーポンをまくとか、一緒にバルをやるとか、やはり地域と一緒にやってもらいたいという思いです。(奥委員)

・今回の図書館のことについて、図書館で働いている職員は、ニュースの内容しか分かりませんとおっしゃっていて、随分失礼な話ではないかと思いました。このような計画やこういう図書館にしたいということぐらいは、働いている職員に話があってもいいのではないかと、職員から希望があれば、ヒアリングぐらいはしていただいてもいいのではと思いました。職員が安心して働けるような状態にできればしていただきたいというのが私の要望です。(永野委員)

⇒内容が入札ということもあり、情報的にはオープンにできませんでした。事業者が決定したのが6月上旬ですので、なかなか職員の方に具体的な説明等ができない状況であったというのを御理解いただきたいと思えます。実際に図書館できるまで、かなりの年数がかかりますので、それまでに、中央図書館から、職員にそのような事業的な説明はあろうかと思えますし、そのようなご意見が出たということは、地域図書館を所管しております教育委員会の中央図書館等には伝えていきたいと思えます。(山本区長)

・図書館建設の工事にかかなりの年数がかかるということですが、その工事期間中に、工事フェンス等建てられると思えます。できれば小中学生の絵画や美術品等をそのフェンスに描いて関心を持っていただくという取り組みをしていただければと思っています。やはり、街としても、子どもたちにとって自分たちの絵が

飾られてると、子どもたちや保護者、おじいちゃん、おばあちゃんの関心が集まるかと思いますので、ぜひそのようなことができればよろしくお願ひしたいと思います。(泉水委員)

⇒非常に楽しい内容になろうかと思います。事業者に、こういう御意見が出たということで、検討するように申し入れていきたいと思います。(山本区長)